

平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	産直システム導入事業
事業主体 (連絡先)	小谷村 (0261-82-2001)
事業区分	(6) イ農業振興と農山村づくり、エ商業振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,948,000 円 (うち支援金: 2,666,000 円)

事業内容

村の特産である山菜・きのこは主として村内3箇所の直売所で販売されているが、栽培者や出荷者の高齢化により減少傾向にあるが、現在集荷・販売量を品目別での把握が出来ていない状況であり、実行性のある施策が打ち出せない状況である。そこで3箇所の直売施設のデータを連結し把握することにより、生産体制の強化、販売の強化を図ることができる。



【オペレーション指導状況】

※1 自己評価 (事業実施率) 【 A 】

事業効果

直売施設3箇所のデータの連結により、他施設の集荷状況が把握できるため、お客様の求めている商品の提供が可能となった。それにより廃棄率の低減、販売高の増嵩に繋がった。また、本事業の広報や集荷を呼びかける強化を図ったため、生産量、集荷量の増加となった。事務的にも従来の紙ベースからデータベースとなったため、日締め、月締め処理が安易になると共に正確な集計が可能となった。

【目標・ねらい】

- 廃棄率の低減 5%
- 販売高の増嵩 10%
- 出荷量の増嵩 10%
-

※2 自己評価 (事業効果) 【 A 】

今後の取り組み

データの集計により、売れ筋商品の特定ができたことから、製品の生産体制の強化を図りたい。具体的には、うどの畑での生産を強化し山から里へ栽培地の移行を促し高齢者でも生産、出荷出来る体制の強化を図りたい。

※1 自己評価 (事業実施率) 欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。
 ※2 自己評価 (事業効果) 欄は、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある